

「介護ビジネスの未来を創る」
週刊高齢者住宅新聞
 Elderly Press Newspaper

2017年(平成29年)
9月27日
 第463号 (毎週水曜日発行)

(株) 高齢者住宅新聞社
 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15
 ☎03-3543-6852(編集部)
 発行人 西岡一紀
 年間購読料 22,680円(送料込+税込)
 ホームページ
<http://koureisha-jutaku.com>

野村不 「健康増進型サ高住」 分譲と一体で開発

野村不動産グループが高齢者向け住宅の開発・企画に進出することを目的に、2015年に設立された野村不動産ウエルネス(東京都新宿区)は、第一弾のサービス付き高齢者向け住宅、「OUKAS船橋」を公開した。核家族の親をターゲット層として「健康増進型住宅」をブランドイメージに置き、10月に開業を控える。

「OUKAS船橋」は既にグループで開発している大規模一般向け分譲住宅「PROUD」の千葉県船橋市の開発地区の一角に開設する。同社が仕掛ける高齢者向け住宅ブランド



「OUKAS船橋」外観

親の近居を促進



「オウカス 船橋」完成式典で挨拶をする野村不動産代表取締役社長 西岡一紀氏

「船橋」は120戸のうち、67戸が2人入居可能。居室面積は1人部屋が19.26平米、2人部屋が37.50平米。共有部にはゲストダイニングやコミュニティカフェ、カラオケ・シアタールームを備えるほか、フィットネススタジオで独自の運動プログラムを提供。介護士や看護師などの資格を有したコンシェルジュも常駐する。また、ツキイが運営するデイサービスがテナント入居として併設している。入居費用は家賃が10.23万円、管理・サービス費が11万円となる。

ロケラムを提供。介護士や看護師などの資格を有したコンシェルジュも常駐する。また、ツキイが運営するデイサービスがテナント入居として併設している。入居費用は家賃が10.23万円、管理・サービス費が11万円となる。

TOPICS	
ニュース・総合	2面
「サ高住」研修義務化を	
介護BIZ	6面
認知症特化型デイ開設	
医療	7面
薬局が訪看進出	
終活	9面
エンターテインメントの処置件数増加	
特集	12面
次期報酬改定に苦言	
特集	14面
技能実習制度は穴埋めにあらず	
関西	18面
患者と医師、繋ぐ看護を	
ヘルスケア	20面
フォーカス	
ミャンマーで日本語学校	

産学連携で「日本版リビングラボ」

共創センター、SMBC、日本総研で覚書

超高齢社会に活力と魅力を

一般社団法人高齢社会共創センター(東京)と、SMBC(三井住友銀行)は9月21日、「日本版リビングラボ」の創出を目的とした協働覚書を締結した。

共創センター(東京)は、都文京区、以下「共創センター」、日本総合研究所(同品川区)、三井住友銀行(同千代田区、以下「SMBC」)は9月21日、「日本版リビングラボ」の創出を目的とした協働覚書を締結した。

東京大学高齢社会総合研究機構と連携し、リビングラボ事業などを展開する共創センター、シニア市場でのオープンイノベーションを推進する「ギャップシニア・コンソーシアム」の運営に取り組む日本総研、多様な金融ソリューションを通じて企業支援に取り組むSMBCの3者は、それぞれの特長を活かし、リビングラボの積極的な活動支援を行う。



高齢社会共創センター 秋山弘子代表理事



第6回

技能実習生の受け入れ計画と受け入れを決めた経緯は、杉本 制度が解禁したらずに、ベトナム人を4人ほど受け入れられるよう各種情報を集め、体制を整えています。これ ことなどの情報から判断しました。

京都市内で多角的に高齢者福祉事業を展開している野村福祉会グループ(京都市)は、制度解禁に備えてベトナムからの技能実習生の受け入れを決め、準備を進めている。

野村福祉会グループは、これまで外国人採用に際しては、外国人採用チームを立ち上げて、受け入れ後の教育体制構築を進めていきました。職員への啓発も進めています。

実習制度で外国人材初受入

野村福祉会グループは、これまで外国人採用に際しては、外国人採用チームを立ち上げて、受け入れ後の教育体制構築を進めていきました。職員への啓発も進めています。

16年度医療費 14年ぶり減少
 速報値で41.3兆円
 厚生労働省は9月15日、2016年度「概算医療費」を公表した。医療費は、14年ぶりに減少し、15年度医療費から0.4%減の41兆3000億円だった。

野村不動産ウエルネスのサ高住初開設に際して野村社長が挨拶が印象的だった。「私達は介護事業者ではない。自立支援に潮流が変わった今、我々の経営資源を活かし、社会的課題を解消するため、のまじり事業として「健康増進」を取り組みたい」と野村社長は15年前に、シニア事業への参入を検討した。当時は、入居金による収益モデルが一般的だった時代。入居者が長生きを期待していた。

リビングラボは、一般消費者が地域の行政や企業、大学・研究機関などと一体となってイノベーションに取り組み、自らの暮らしに役立つ商品・サービスや事業を創り出す活動。活力と魅力ある超高齢社会の実現には欠かせない活動として着目され、公的支援を受けながら欧州を中心に世界各国へ急速に広がってきている。

今週の主な動き	
9月28日	○エム・エム・ピー・ジー総研「2025年を見据え、更にその先のために? 地域力を高め、在宅患者のために為すべきことを考える」(会場/東京 MMPGセミナールーム)
9月29日	○新社会システム総合研究所「2018年同時改定の方向性と病床再編の行方」(会場/東京 友泉西新橋ビル)
9月30日	○公益社団法人かながわ福祉サービス振興会「小規模多機能型居宅介護の活用セミナー」(会場/神奈川県かながわ福祉サービス振興会セミナールーム)
	○日本通所ケア研究会「個別機能訓練・通所介護計画書の書き方・実技習得2日間集中セミナー in 東京」(会場/東京 リロの会議室「田町」)
10月1日	○一般社団法人国際教育「第165回国治研セミナー」(会場/東京 HSB 飯沼州ビル会議室)
	○日本通所ケア研究会「介護施設でのターミナル期の意思決定支援と看取りケアセミナー」(会場/愛知 imy 貸会議室)